

八百屋塾通信 Vol.4

八百屋塾ホームページをごらんください
▼「八百屋へ行こう」で検索
<http://www.shoukumi.or.jp/index.htm>

一富士二鷹三茄子 なすび

縁起のいい初夢の三つめは、徳川家康の好物「なす」。右の写真は家康に献上されたという「折戸なす」です。江戸時代、早出しのなすには法外の高値がつき、禁止令が出たほど。その後、折戸のある三保半島は促成栽培の発祥の地になりました。

折戸なす(直径10cm程度)



ひごむらさき (30cm程度)



サファイヤなす (8cm程度)



越後白なす (15~20cm)



米なす (20~25cm)



■なすの原産地

なすの原産地はインド東部とされ、日本には、中国経由で8世紀頃にやってきました。約1300年前から年に1回として、約1300回も世代更新しています。こうして生まれたのが、土地の文化、食べ方、生活習慣に合う、多様な地方品種です。

■地方による大まかな特徴

西日本のなすは長く、関東は卵形、東北は小さい。丸なすは近畿、長野、東北など。ほかにもさまざまな形のなすがあります。

民田なす (3~5cm)



長なす (20~25cm)



埼玉青なす (直径12cm程度)



巾着なす (直径10cm程度)



泉州水なす (10cm前後)



賀茂なす (直径10~15cm)



寺島なす (8~10cm)



千両二号 (12~15cm)



大長なす (40~60cm)



■トップスターは「千両二号」

タキイ種苗から、1961年「千両」、1963年「千両二号」が登場し、F1(一代交配種 雑種 第一代)時代の幕が開けました。「千両なす」は、外観がよく、いろいろな食べ方に向き、作りやすく早生で多収という優等生で、最も普及しています。

市場の動き

- 群馬・茨城・栃木産中心の出回りで作付けは前年並み
- 福岡・高知産の切り上げが早く関東産も曇雨天と低温から少ない状況
- 今後は長雨続きなので相場は高値堅調。下旬には路地物が増え、反落の予想

■なすの詳しい話は八百屋塾ホームページで

- ◇2019年7月21日 タキイ種苗(株) 関東支店 藤田守久氏
- ◇2015年7月12日 新潟市農業活性化研究センター 小田切文朗氏
- ◇2010年7月25日 神奈川県農業技術センター 北宜裕氏
- ◇2016年8月21日 杉本青果店店主 杉本晃章氏
- ◇2014年8月24日 三鷹市星野農園 星野直治氏
- ◇2009年6月21日 杉本青果店店主 杉本晃章氏 ※肩書きは当時